

令和4年3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住 所 福岡市博多区東公園7番7号
管理機関名 福岡県教育委員会

代表者名 教育長 吉田 法稔

令和3年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和元年6月3日（契約締結日）～ 令和4年3月31日

2 指定校名・類型

学 校 名 福岡県立香椎高等学校

学校長名 矢ヶ崎 裕和

類 型 プロフェSSIONナル型

3 研究開発名

ファッション都市福岡「ファイナルディスティネーションプラン2030」

4 研究開発概要

福岡市は成長著しいアジア諸国に我が国で最も近く、経済や文化、環境など様々な分野で緊密な交流を行ってきた歴史がある。今後もアジアの活力を取り込み、アジア市場への一大拠点としてその役割を果たしながら、アジアとともに発展していくことが可能な地理的条件と優れたネットワークを有している。

しかし、福岡市では人口が増加しているにもかかわらず、ファッション業界では、東京一極集中による空洞化が進み、地場産業は有能な人材を雇用することができていない。本校は、北米、ヨーロッパ、東京で活躍するなど、有能な人材を輩出しているが、地域を愛し、地元で活躍したい思いがあっても、活躍できる雇用がないために福岡での活動ができない状況にあるものもある。このような状況を解決するために、地元大学、地場産業などと連携・協働することで、課題解決を図り、ファッション業界における継続可能な好循環を創りたいと考えた。

また、就職後の離職が問題となっているが、その理由として、仕事への理想と現実とのギャップや就業形態への不理解が挙げられており、自己の能力や理想と就職先のマッチングに課題が見受けられる。

そこで、本校が核となり構築した、福岡県、福岡市、地元大学、地元企業等、多様な業界のプロフェッショナル人材を参集したコンソーシアムにより「福岡ファッションインキュベータ」を設立し、商品開発から流通・販売までの流れを探究するとともに、福岡を愛する高度な資質・能力を身につけた人材を継続的に育成することにした。また、個人の適性に応じたファッション業種に関する情報を提供することにより、マッチングミスのない、将来活躍が期待される業種の選択が可能となる環境を構築するものである。

5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設していない
- ・教育課程の特例の活用 活用していない

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
坂元美貴子	香蘭女子短期大学 教授 ファッション総合学科長	ファッション教育
横溝紳一郎	西南学院大学 教授	英語教育
大塚 知弘	日本経済大学 教授 福岡キャンパス事業推進部長	経済学
相原 幸子	学校法人文化学園文化服装学院 学院長	ファッション教育
土岐 幸子	ESMODJAPON	ファッション情報
桂 由美	滋慶文化学園福岡ウエディング&ホテル・I R 専門学校 名誉学校長	デザイン
徳満 泰彰	Shopify Japan 株式会社 パートナーシップ兼事業開発部長	経営・流通
三ヶ田浩二	一般社団法人教育ソリューション研究協議会 認定キャリア教育コーディネーター	キャリア教育
西田 将浩	一般社団法人進路指導・キャリア教育支援機構 教育顧問	カリキュラム開発
岡本 美加	福岡県高等学校家庭科研究会 会長 (福岡県立折尾高等学校 校長)	研究・広報支援
檜山 芳紀	福岡商工会議所産業振興部長	研究・広報支援
苗井 章紀	福岡県商工部新事業支援課長	部局行政
井手 優二	福岡県教育庁教育振興部高校教育課長	教育行政

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
公立大学法人福岡女子大学	森 邦昭 (国際文理学部教授)
福岡大学	田村 馨 (商学部教授)
香蘭ファッションデザイン専門学校	内田 智子 (一級婦人服子供服製造技能士)
一般社団法人教育ソリューション研究協議会	長谷川絵美 (非認知能力育成アドバイザー)
一般社団法人進路指導・キャリア教育支援機構	西田 将浩 (教育顧問)
株式会社ワールドストアパートナーズ	海悦 亮 (九州沖縄事業所長)
株式会社WE BUO	吉田 透 (代表取締役 CEO)
福岡県教育庁教育振興部高校教育課	井手 優二 (課長)
福岡県立香椎高等学校	矢ヶ崎裕和 (校長)
※アドバイザー 福岡市経済観光文化局 国際経済・コンテンツ 部コンテンツ振興課	樋口 隆夫 (エンターテインメント係長)

8 カリキュラム開発専門家、地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	森 邦昭	公立大学法人福岡女子大学 教授	非常勤
地域協働学習支援員	長谷川絵美	一般社団法人教育ソリューション研究協議会 キャリア教育デザイナー	非常勤
地域協働学習支援員	吉田 透	株式会社WE B U O 代表取締役 CEO	非常勤

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導委員会			○								○	
コンソーシアム会議			○	○		○	○		○	○		
社会人特別講師 招聘事業			○ 2h	○ 2h				○ 4h	○ 8h	○ 6h		

(2) 実績の説明

①管理機関における事業の管理方法

運営指導委員会及びコンソーシアム会議に毎回出席し、事業の進捗状況の管理、助言・指導を行った。また、カリキュラム開発等専門家や地域協働学習実施支援員はコンソーシアムメンバーとして会議に参加しており、県行政としての立場からの実現性等について助言するとともに、各参加者との情報交換を密に行った。

②管理機関による主体的な取組について

生徒の専門性をより高めるため、社会人特別講師招聘事業による特別授業を実施した。また、事業終了後の自走を見据えて、本事業で設立した「福岡ファッションインキュベータの運営について、運営協議会（仮称）として引き続き支援を行う予定である。

③高等学校と地域との協働による取組に関する協定文書等の締結状況について

- ・福岡コロニー（障害福祉サービス事業所のみ工芸）との業務委託契約
- ・福岡ファッションインキュベータ加入承諾書

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
科目「ファッションデザイン」における商品企画演習	○ 9h	○ 6h	○ 3h									
科目「ファッションデザイン」における商品企画実習			○ 11h	○ 2h	○ 4h	○ 5h	○ 13h	○ 10h	○ 4h	○ 6h		
科目「服飾手芸」における商品製作実習									○ 4h	○ 2h		

科目「ファッションデザイン」における福岡リーセントホテルとのコラボレーション企画（ファッションショー）								○ 15h	○ 8h				
科目「総合的な探究の時間」における福岡リーセントホテルとのコラボレーション企画（展示・物販）								○ 3h	○ 2h				
科目「ファッションデザイン」におけるなのみ工芸との協働事業	○ 5h	○ 4h	○ 6h										
科目「ファッションデザイン」におけるブックオフとのコラボレーション事業（リメイクコンテスト）								○ 9h	○ 3h				

（２）実績の説明

①研究開発の内容について

ア 高度な資質を身に付けた人材の育成

全国高等学校家庭科被服製作技術検定や色彩検定・サービス接客検定・ファッション販売能力検定等の高度な資格取得に向けて取り組み好成績を収めるとともに、知識・技術を習得することができている。また、外部講師等による多くの特別授業や協力機関との協働事業を実施し、プロフェッショナル人材からの指導を受けることで、知識・技術を高めるだけでなく、自分の適性を見極め、職業観を高めることができた。

令和元年度に実施した MUFG 高校魅力化評価システムによると、本校生徒は全国的にみて社会性が低いという結果が出ていたが、この３年間で徐々に向上した。最も顕著にみられたのは地域貢献意識の向上で、本事業により、地域に視点を持ち、多くの協力機関と連携・協働して活動した結果だと推察される。

イ カリキュラムの構築

本校は平成２８年度から３０年度までの３年間、スーパー・プロフェッショナル・ハイスクールの研究指定を受け、高度な資質・能力を育む産学接続型教育プログラムを開発し、実施していた。本事業で新たに開発した外部協力機関と連携・協働した実践的な学習活動についても、３年間を見通して取扱う科目や実施時期を検討して年間指導計画の中に位置付け、本校独自のカリキュラムを構築した。これにより、事業終了後も開発した教育活動を継続して実施することができる体制が整った。

ウ 商品企画実習

CONNECT:というブランド名でアパレル商品を製作し、企画から販売までの一連の流れを探究した。業務内容を「企画」「縫製」「経営」「販売」の大きく４つの分野に分け、生徒の特性や進路希望に合わせてリーダーを担わせ、協力機関と連携・協働しながら実施した。また、販売はECサイトに特化しているため、商品のクオリティだけでなく、見せ方や広報の方法を工夫するなど、商品の価値を認識させることについても探究した。

エ 福岡リーセントホテルとのコラボレーション企画（箱崎JKプロジェクト）

昨年度より実施している企画で、作品の展示・物販及びディナーショー形式のファッションショーを実施した。６回の合同企画会議を実施し、生徒が提案した企画の内容に関して、ホテル側から助言・指導をいただきながら実施をした。集客のためにチラシや動画を制作したり、ホテル周辺地域でチラシのポスティングを行ったり、学校では経験できない実践的な学びの中で、ビジネスに関する知識の習得と働くことの厳しさを経験することができた。

オ 障害福祉サービス事業所なのみ工芸との協働事業（ねこコースターの縫製）

なのみ工芸ではさをり織りを織り、商品に加工して販売をしているが、本校生徒は商品の一つであるねこコースターの縫製業務を担っている。この事業は、業務委託契約を締結して実施しており、事業所で生産している織物を提供していただき、生徒が縫製したものを納品し検品をしてもらうことで、工賃はいただかないものの、商品を製作する厳しさを経験する教材として取り扱っている。

また、さをり織りを使用した新しい商品を企画し提案を行っており、今後は商品化を目指したい。

カ ブックオフとのコラボレーション事業（リメイクコンテスト）

リサイクルショップのブックオフから商品の古着を無償で提供していただき、2～3名のグループでアップサイクルさせるコンテストを実施した。関係者による審査だけでなく、店頭で展示し、一般のお客様からも投票してもらい優秀な作品を表彰した。この取組を通して、デザイン力や縫製技術の向上だけでなく、多くの衣服が廃棄されている現実を知り、社会的な課題にも目を向けるよい学びの機会になった。今後は、実施の規模を拡大し、本校だけでなく県内で服飾を学ぶ他校の生徒にも参加してもらい、実施をしていきたい。

キ 福岡ファッションインキュベータの運用計画の策定

本校で実施している「商品企画実習」等で、より高度で実践的な技術を習得しながら、職業観も育成できるシステムの構築を目的として、令和2年11月に福岡ファッションインキュベータを設立し、本校生徒に対する教育支援の体制を整えた。今年度は試用期間として運用を開始し、「商品企画実習」への直接的な支援だけでなく、特別授業や現場見学、協働事業等多くの取組を行った。今後は、今年度の実績をもとに、計画的に運用していく予定である。

ク 福岡ファッションインキュベータ主催事業の実施

11月30日に本校会議室において、福岡ファッションインキュベータ会議を実施した。協力機関の代表者に出席いただき、設立から一年間の事業報告や今後の運営について説明を行った。また、12月19日には福岡リーセントホテルでFFI Fashionday2022と称して、協力機関が集結してファッションイベントを実施した。これらの事業は、協力機関相互の親睦や情報交換の場でもあるため、加盟団体の主導により今後も継続して実施していきたい。

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け

ア「ファッションデザイン」3年（7単位）

3年次の「ファッションデザイン」は、3単位を「商品企画」、4単位を「産業」と称して実施している。

「商品企画」では、製作にかかる時間数が十分に確保できないという反省があげられていたため、次年度からは、学校設定科目「ファッションビジネス」を新設し、2年で1単位、3年で3単位の継続履修とする予定である。これにより、開始時期を前倒しにすることができ、製作にかかる時間数を増やすことができるため、これまでよりも余裕を持って実施できると考える。

「産業」では、福岡リーセントホテルとのコラボレーション企画「箱崎JKプロジェクト」などの校外でのファッションショーの準備や練習、ブックオフとのコラボレーション事業「リメイクコンテスト」を取り扱う。現在コロナ禍で、校外でのファッションショー等のイベントがほとんど実施されていないが、今後状況が改善して実施ができるようになった際は、実施時期が重なりスケジュールが過密にならないような配慮が必要である。

イ「ファッションデザイン（選択）」3年（2単位）

「美術Ⅱ」と「ファッションビジネス」の選択制となっている。主に製品の企画と製作を行っており、障害福祉サービス事業所のみ工芸との協働事業のねこコースターの縫製を実施している。

ウ「服飾手芸」2年（2単位）・3年（2単位）

文化祭や校外でのイベント等の際に販売をする商品を製作する。2年生では基本的な技法を練習し、それらの技法を用いた作品を製作し、3年生では応用作品を製作する。

エ「総合的な探究の時間」2年（1単位）

「箱崎JKプロジェクト」の展示・物販について取り組んだ。「服飾手芸」等で製作した商品の販売準備等をホテル側から助言・指導をいただきながら実施した。活動の時間が十分に確保できなかったという反省を踏まえて、令和4年度からは新設する学校設定科目「ファッションビジネス」で取り扱う予定である。

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における教科（科目）横断的な取組について

ア「コミュニケーション英語Ⅰ～Ⅲ」（1～3年）

ファッションに関連する教材を活用した授業を実施している。コロナ禍で予定していたイングリッシュキャンプは実施できなかったが、2年生が次年度のファッションショーに向けて考えた衣装のデザイン案をオンラインで海外（アメリカ）の専門家に英語でプレゼンテーションを行い、助言をいただく等の取組を行った。

次年度からは、学校設定科目「ファッションイングリッシュ」を新設し、2・3年次に履修する予定である。

イ「総合的な探究の時間」（1・2年）

本校では1年次に、SDGs についての探究活動を実施しており、ここでの学びを様々な科目に関連付けている。女性ドライバーのユニフォームの提案では SDGs 5（ジェンダー平等を実現しよう）を、リメイクコンテストでは SDGs 1 2（つくる責任 つかう責任）を取り上げ実施した。

文化祭のファッションショーでも、SDGs 1 5（陸の豊かさを守ろう）や、SDGs 1 6（平和と公正を全ての人に）から発想したテーマで衣装を製作したグループがあったが、それらの衣装を、SDGs をテーマにしたファッションショーが実施された際に、衣装提供を行った。

④学校全体の研究開発体制

SCH推進課を設け、校務分掌として位置付けて事業を推進した。また、毎月、研究推進委員会を実施して研究開発の進捗管理や情報の共有を行い、定期的な確認や成果の検証や評価等を行いながら、必要があれば計画や実施方法の改善を提案・実施した。

業務内容	事業担当責任者
運営指導委員会の運営	矢ヶ崎裕和（校長） 高木 浩信（副校長）
コンソーシアムの組織化・運営	高木 浩信（副校長） 西嶋 祐子（事業主任）
福岡ファッションインキュベータの設立・運用	矢ヶ崎裕和（校長） 高木 浩信（副校長） 西嶋 祐子（SCH 推進課長）
研究推進委員会の運営	西嶋 祐子（SCH 推進課長）

カリキュラム開発・検証と改善及び実施	福原 操織 (家庭科教科主任) 伊原 豊 (教務主任)
ファッション業種適正評価法開発	福原 操織 (家庭科教科主任)
ファッションイベント企画・運営実習	安永 久子 (家庭科教諭) 下山 清美 (家庭科教諭)
商品企画実習	西嶋 祐子 (SCH 推進課長)
商品販売実習	江口 潤 (家庭科教諭)

⑤カリキュラム開発専門家及び地域協働学習支援員の学校内における位置付けについて
コンソーシアム会議に毎回参加し、本事業における実施内容を踏まえて、助言・指導を行った。

⑥類型毎の趣旨に応じた取組について

ア 地域の産業界と連携・協働した商品開発

- ・障害福祉サービス事業所のみ工芸から提供していただいている織物（さをり織り）を使用した商品の企画演習の実施
- ・博多織を使用した卒業証書ホルダーの製品化

イ オリジナルブランドによる商品開発及び販売

- ・CONNECT:というブランド名で、アパレル商品を企画・製作し、ECサイトで販売

ウ 地域の産業界と連携・協働したファッションイベントへの参画

- ・福岡リーセントホテルでの展示・物販及びファッションショー
- ・トラックフェス（主催：福岡県トラック協会）での女性トラックドライバーのユニフォームの提案、動画配信
- ・リメイクコンテスト
- ・キルト&ハンドメイドフェア（主催：かすや6町キルトの会）でのファッションショー
- ・アイランドアイ文化祭での作品展示
- ・FFI Fashionday2022（主催：福岡ファッションインキュベータ）にモデルとして参加
- ・貴賓館（旧福岡県公会堂）での作品展開催

⑦成果の普及方法・実績について

ア ポスター・リーフレット等

福岡ファッションインキュベータに関するポスターやリーフレットを関係機関等に配布して掲示を依頼したり、生徒の活動に関する掲示物の掲示や、学校ホームページへの掲載を行ったりした。

イ 第31回全国産業教育フェア埼玉大会における発表会参加

地域との協働による高等学校教育改革推進事業（プロフェッショナル型）最終年度の学校による発表会に参加し、3年間の取組について代表生徒による発表を行った。

ウ 創立100周年記念式典における生徒研究発表

本校創立100周年記念式典の生徒研究発表で、本事業での活動内容について全校生徒や来賓に向けて発表を行った。

エ 福岡県産業教育振興会家庭部会学科主任会議での報告

3年間の生徒の活動と福岡ファッションインキュベータについて説明を行った。

オ 「共済福岡」への掲載

公立学校共済組合福岡支部発行の「共済福岡」第217号に合同企画会議の様子が掲載された。

カ インスタグラムによる発信

毎週金曜日、投稿を行った。順調にフォロワー数を伸ばしており、本校の取組を発信している。

1 1 成果・評価

(1) カリキュラムの構築について

多くの特別授業や協働事業を実施したが、それらの取組を年間指導計画の中に位置付け、本校独自のカリキュラムを構築することができた。次年度からの新教育課程の施行に伴い、「商品企画実習」に特化した学校設定科目「ファッションビジネス」を新設しており、円滑に実施をしていきたい。

(2) 福岡ファッションインキュベータについて

令和2年に福岡ファッションインキュベータを設立し、今年度は試行期間として運用を開始し、生徒に対して特別授業や協働事業を実施することで高校生に対する人材育成の支援システムとしての機能は見通しが立った。将来的には、高校卒業後数年経った後でも、福岡でブランドを立ち上げたり起業をしたりしたいと考えたときには支援が受けられ、福岡のファッション業界活性化のプラットフォームとなることを目指しており、更には卒業生が高校生を支援するという好循環が生まれることを期待している。

設立時は6団体であった協力機関は14団体に拡大しており、今後も更なる拡大を目指していきたい。

(3) ファッション業界を担う人材の育成について

卒業生の進路状況を見てみると、68.4%の生徒がファッション関係の進路を選択している。毎年生徒たちに進路希望調査を行っており、ファッション関係の進路を希望している生徒の「将来就きたい職業」を入学時と卒業時で比較した。入学時はファッションデザイナーやメイクアップアーティスト、スタイリストなど7種類であったが、卒業時はブランドプロデューサーやバイヤー、縫製業などが加わり、14種類に増加していた。入学時点ではファッション業界にどのような職種があるのか知識が少なかったが、この3年間でファッション業界には様々な職種があり、その中から興味のあるものや自分の適性に合ったものを見出したことによるものと推察している。

<添付資料>目標設定シート

1 2 次年度以降の課題及び改善点

(1) 専門性の向上

本校ファッションデザイン科は、被服科としてスタートし、時代の変化や社会のニーズに対応しながら、服飾デザイン科を経てファッションデザイン科となった経緯があり、「縫製」を中心に据えた教育活動を行っている。外部講師を活用した特別授業を数多く実施し、「縫製」だけでなく、激しく変化する社会のニーズに応じた専門性の向上にも努めている。県教育委員会による社会人特別講師招聘事業の予算により実施している特別授業も多く、今後、予算措置がなくなった場合にも、現在と同等もしくはそれ以上の専門性を維持できるように、福岡ファッションインキュベータを活用していきたい。

また、目まぐるしく変化する社会の動きに敏感になり、ファッション業界で必要とされるスキルを身に付けさせるための教員の指導力向上が必要である。

(2) 商品企画実習に係る財源の確保

本校では長年、服飾手芸等で生徒が製作した作品を文化祭で販売し、その売り上げを翌年の実習費にすることで販売実習を継続してきた。3年前から「商品企画実習」でECサイトでの販売を開始したことで以前よりも経費がかかるようになった。現時点では、これまでどおり物販の売上金を循環させて実習ができているが、今後、準備した商品が売れなければ、十分な資金を準備することができない可能性も出てきている。

高いクオリティの実習を継続していくための資金について、昨年度から県教育委員会にも相談するなどの検討をしているが、解決策を見いだすことができておらず、早急に何らかの対策を考えなければならない。

(3) 福岡ファッションインキュベータの管理・運用について

高校生に対する人材育成のシステムとしての機能は見通しが立ったが、将来的に福岡のファッション業界活性化のプラットフォームとなるための機能については、本事業の研究開発名にもある2030年を目途に具体的な数値目標を設定し、3年ごとに検証しながら取り組んでいきたいと考えている。

現在福岡ファッションインキュベータの事務局は本校内に設置しているが、教員が通常の業務を行いながら事務局業務を行うことは現実的ではなく、今後この組織をスムーズに運営していくために、事務局を民間企業に担っていただく方向で準備を進めている。また、この組織を維持していくためには、マンパワーだけではなく資金も必要となるため、収益を伴う福岡ファッションインキュベータ主催事業を実施したりスポンサーを募ったりするなど、資金捻出の手立てを考える必要がある。

福岡ファッションインキュベータは当初、本校生徒を支援するために設立したが、今後は県下の服飾を学ぶ高校生全体へ支援の対象を拡大し、福岡県全体でファッション教育の活性化を図っていききたいと考えている。そのためには、まずは本校が福岡ファッションインキュベータの活用モデルとなり他校への周知を行いながら、活用を促したい。また、協力機関の拡大については、アパレル企業を中心に積極的に行っていきたい。

(4) ファッション業種適正評価システムプログラムの開発

高等学校在学中に、自分の適性を知り就職時のミスマッチを防ぐために、3年次の進路決定前に福岡ファッションインキュベータの協力機関に御協力いただき、現場での実習等のプログラムの実施を検討していたが、コロナ禍で実施ができなかった。現時点ではまだ見通しがたたないが、状況が落ち着いたら、1年次に「生活産業基礎」でファッションに関する職業について学習して視野を広げた後、「企画」「縫製」「経営」「販売」の4分野で現場見学や実習等を実施し、自分の適性に合った進路選択をさせたい。また、生徒の適性を客観的に判断するために、職業適性検査等の活用も検討したい。

あわせて、コロナ禍においても生徒の学びを止めることがないよう対策を検討していきたい。